

勉強会のセミナーは、学年ごとに分けて実施される方が良いと思います。
純粹未修の事は分かりませんので、2年次以降についてお話しさせていただきます。

○2年生・3年生共通

①前期スタート時に択一の過去問を司法試験と同じ時間帯で解く

まず、自分の現在の法律知識がどの程度のものか把握した方が良いでしょう。

そのために、以前行っていたらあった過去問の択一問題を解かせる課外プログラムを実施されたいかがでしょうか。

有名大学に入っただけで自分には能力があると過信している方が多いですが、その方々は往々にして「択一なんて楽勝」と思っているフシがあります。

個人的には、知識がなければ論文は書けないと思いますし、論文がある程度書ける人にとっては、知識がある事が心理的に安心要因となってより論文力が上昇すると考えています。

2年生にとっては、未修と既習が合流して、危機感を煽る効果があると思いますし、3年生にとっては残り1年しかない時点での確認ができます。

ゴールを見据えて勉強しなければ、何をやっていいのかわかりません。

前期開始時に2年生で5～6割、3年生で6～7割とれていなければ大きな危機感を持つべきだと思います。

②まとめノートの作成

授業内容を盛り込んだ自分なりのまとめノートを作成するのは、本当に有益です。もっとも、一から作るとなると、かなり時間が取られますから、先輩からのデータや辰巳の趣旨規範ハンドブック等を利用して、自分なりのまとめノートを作ること

③過去問も答練も必ず、時間を計って実際に書くこと

○2年生

①ゼミ及び過去問の使い方

・ゼミは、向上心の高い人間とだけやらなければなりません。仲が良いというだけで組むゼミは殆どが落ちます。

私がやったゼミメンバーでいいますと、在学中は「○○・○○・○○・○○」がメインで他に「○○・○○・○○・○○・○○」でした。修了して、「○○・○○・○○・○○」です。お分かりの通り、○○以外は全員合格しております。

他方、未修組が集まってゼミをやっていたメンバーは多くが不合格のままです。未修組は、必ず既習組と交わってゼミを組んだ方が良いでしょう。

また、強力なリーダーシップ（これはなかなか難しいですが）を取れる人間が中心となってそれぞれのゼミのリーダーとなり、互いがゼミの状況（何をやっている

か、資料の共有等）を報告しあう関係を築ければなお良いと思います。

例えば、私は堀本のエリートゼミ「〇〇・〇〇・〇〇・〇〇・〇〇」、〇〇のゼミ「〇〇・〇〇・〇〇・〇〇」と情報を共有していました。

- ・2年生ですので、お互いの事がまだよくわからないと思いますので、とりあえずゼミを組み、「こいつらと一緒に勉強したら落ちる」と思えば、即解散するもしくは、前期で解散するという方法をとれば良いと思います。

- ・過去問については、独学でも解説本が豊富ですので可能かと思いますが、できればゼミで過去問をといた方が良いと思います。一応、2時間と区切り、無理そうなら3時間かけてもこの段階では良いと思います。ただし、パソコンで書く事はせずに、実際に書く事を心がけさせてください。

②授業の予習・復習について

- ・予習については、時間を決めてやる事をお勧めします。ローの授業は、司法試験より高度な場合も多々あるので、しっかり予習しようとするればキリがありません。はっきり言って、予習は分担しても良いくらいな気がします。

先生方ももう少し、高度な課題を出しているわけですから、予習ができていない事に目をつぶって欲しいと思います。

- ・復習にこそ時間を使って欲しいと思います。おそらく多くの者が、復習は試験直前に詰め込むだけとなっています。これでは、長期記憶が定着しません。長期休暇に入れば、それまでの苦しさからの開放で、ほとんど勉強しなくなってしまうし、そろそろ勉強しようと思う頃には、次の学期の予習やゼミの予習・復習になってしまい、授業の予習をする人間はほとんどいませんでした。

③司法試験に関係のない科目について

これこそ、ローの弊害だと思います。期末試験とか必要でしょうか。文科省の意向なので従わざるを得ませんが、授業内容や特に試験内容の見直し（例えば、平常点8：試験2とか、試験はレポートにするとか）を考えた方が良いと思います。

〇3年生

①ゼミ及び過去問の使い方

- ・ゼミは、過去問もしくは司法試験頻出の問題集に限定して行うのが良いと思います。

- ・3年生にもなればゼミメンバーも固定しているでしょう。これが馴れ合いになっていたら即解散した方が良いです。また、ゼミメンバーの力が伸びていない（例えば、学校の成績が上がっていない。予備校の答練の成績が上がっていない。ゼミメンバー同士で答案をチェックしても向上が見られない等）のであれば、即解散です。誰の得にもなりません。

ゼミのおしりの時間は、必ず決めた方が良いです。でなければ、ダラダラとくだらない話が続き、時間の無駄です。

細かい論点などで、議論が盛り上がるのも無駄です。また、10分議論しても分かなければ、それは無視するか、後日、教授に質問にいてその答えを共有するのも良いと思います。

また、オルサを使うなどして、ゼミの情報等を学生で共有する事もお勧めです。
・過去問については、必ず2時間で書き上げることが必須です。この点に独学ではなく、ゼミの良さがあります。つまり、途中答案で内容がスカスカの答案を他人に見せるという恥ずかしさで頑張ります。仮にヘラヘラしている奴がいたら、ゼミから抜けてもらいましょう（そういう条件でゼミを開始すれば、文句を言われることはありません。）。プライドが高い面子が揃っているわけですから、こういう方法が一番効果的だと思います。

・また、完全解答を作るほど無意味なことはありません。司法試験は、メリハリが求められます。そのメリハリの感覚を身に付けることと完全解答を作ることは両立しません。

○修了生について

①まず、再現答案を作ること

自分の弱点もわからず、翌年戦っても負けるのが目に見えてます。3回目以降の合格率が極端に下がる要因として考えられるのは、モチベーション、勉強時間の不足等色々な要因が考えられますが、最も大きいのは、「何も変えないこと」だと思っています。徹底的に敗因を分析しなければ、同じミスを繰り返すのは当然です。

②予備校の答練かゼミをして他人に解答を見てもらうことは必須

自分だけで自己の弱点を把握することは困難です。お金に余裕があれば、予備校を利用しない手はありません。予備校は、自己の現在の立ち位置を計るだけでなく、どういう論点が頻出なのか、コンパクトに書くためにはどう表現すればいいのか等、様々なテクニックが学べます。お金に余裕がなければ、予備校に通っている友人から資料を見せてもらいましょう。